

周南市鹿野仁保谷に於けるヤマネ

深町 修¹⁾

1. はじめに

国指定天然記念物であり、レッドデータブックやまぐち(2002)で絶滅危惧 B類に指定されているヤマネが、周南市鹿野仁保谷の山林に架けた巣箱で確認できた。

2008年に最初確認し、その後2012年、2013年と3回目になったのでその概要を報告する。

2. 生息環境

1 位置

周南市鹿野仁保谷は、鹿野の町から約6 km離れていて、島根県との県境に近い位置であり、標高は約500mである(図1)。



図1 調査地の位置

2 環境

写真1と写真2は周辺の環境を写したものであるが、未舗装の道路があり、標高の高い方へ向って左側約30mに仁保川が流れている。周辺はスギ、ヒノキの人工林と自然林が混合しているような環境で、ヤマネが確認できた場所は写真3に示すように杉の人工林と杉を伐採したあと、灌木が生えている場所との境界付近であった。

¹⁾ FUKAMACHI, Osamu 〒746-0034周南市大字富田2705-10



写真1



写真2

3) 巣箱設置

1989年から2007年の間に架け替えをしながら小鳥用の巣箱9個、2009年にヤマネ用の巣箱3個を高さ4.5m～5mに架けた。小鳥用の巣箱は、ヤマガラ用に作成した巣箱であり、内側の幅は140mmで、高さは前が200mm、後ろが230mmで、前面に32mmの出入りよりの穴を開けている（写真3）。ヤマネ用巣箱は、背面に出入りよりの穴をあけたもので、内側の幅・高さは同じである。幹に接する面には添え木をしている。

3. ヤマネの確認

1) 2008年

2008年12月13日に確認した（写真4）。小鳥用に架けた巣箱で地上5mに位置にあり、夏にヤマガラが営巣した後の巣材が残っている状態で、その巣材を取り除いたところ、その下で冬眠をしていた。この場合は特にヤマネが巣材を運んだ形跡は感じられなかった。

その10日後に、調査の為に再び確認をしたが既に居なかった。

2) 2012年

今回確認したと同じ場所で2012年1月10日に確認をした。地上4.5mのヤマガラ用の巣箱で、細い杉の皮でできた丸い巣があり、それを取り除くとその下でヤマネが冬眠をしていた。いずれ写真を撮ろうと思っていて、その時は撮らなかった。しかし、2日後に調べると既に居なくて、結局撮影はできなかった。この巣がヤマネのものであることが後で分かった。又、別に架けていたヤマネ用の巣箱にも似たような巣があったので、そこにもヤマネが居たのであろう。



写真3

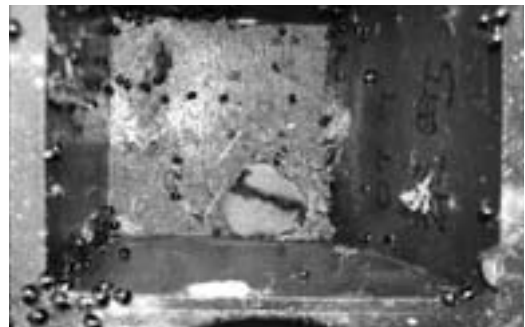


写真4

3) 2013年

2012年にヤマネを確認した同じ巣箱で確認をした。2013年1月23日に調べたところ、2012年と同じような杉の細い皮で出来た巣があり（写真5）、それを取り除くと下に2匹のヤマネがくっついて冬眠をしていた（写真6）。なお、巣の写真であるが、下にヤマネが居るとは知らず取り除き、後で又元に戻したので形状が少し異なっている。最初は綺麗に丸くなっていたのである。

写真5の巣については、杉の皮でできているのはムササビのものと同じであるが、ムササビのは遥かに素材が大きいのである。又、モモンガの巣も以前確認したが（写真7）、それは杉の内皮であり、全く素材が異なっていた。

巣は綺麗な球状をしていた。ヤマネはその中央に居るのではなくて、底に居たのである。2012年3月3日には巣材を除去したており、新たにヤマネが持ち込んだ巣材であると考えられる。自分で作った巣なら、その真ん中に居るのではないかと思うが、不思議である。

2日後の1月25日に再び調べたところ、もう1匹しか居なかった（写真8）。あるいは周辺の巣箱に移ったのかもしれないが確認はしていない。



写真5



写真6



写真7



写真8

4) 利用巣箱

ヤマネは、いずれも小鳥用の巣箱で確認された。なお、巣箱の位置は暗い杉林ではなくて林周辺で雑木もある場所であった。2008年に確認したのは道路のすぐそばの杉に架けた巣箱であり（写真1）、2012年は2013年と同じ場所であった（写真3）。ヤマネ用巣箱ではヤマネは確認できなかった。もっとも、巣箱を架けた位置の問題があり、巣箱の穴の位置の問題ではないと思っている。

4. まとめ

ヤマネは国指定天然記念物であるが、鹿野の仁保谷近辺では周辺の人々から以前にも見かけたことがあるという話を聞いているので、確かめたところ、10年以上前には山の小屋の中に毎年のように現れていたが、最近は全く見ていないということである。数は減ったのかもしれない。

今後も注意して見守っていきたいが、いずれも冬眠状態を確認したのであり、繁殖の状況は分かっていない。あの場所では蛇を捕まえては他所へ運んでいる。来る人が嫌がることとヤマガラやシジュウガラの雛を食べるからであるが、もしかしたらヤマネの為にもなっているかもしれない。ただ、同じ場所でオオコノハズクの営巣が確認されていて、ヤマネはその餌になることも考えられる。

いずれにしても、これからも調査していきたいものである。